

スペシャルカーズ

# Special cars

Tuning & Dress-up Car Magazine

2010 No.9 定価 780Yen

## Tuned C63 Special

# 「C63」徹底研究。

[素材としての価値] ヴァイタミンC63AMG

[FSWバトル] ファーストC63AMG × チェックショップM5

[海外試乗速報] キヘラー/レンテック/フェート/ロリンザー

## The Next Level スーパースポーツ改造論。

[最新トレンド] アプトR8 GT R/ノヴィテック・ロッソRACE848/カールソンC25 他

[独占試乗] ノヴィテック・ロッソ599 × 430 16M × グラントウーリスM

[いじり方] ヴァイタミンF430 × ガヤルドLP560-4  
× V8ヴァンテージ

[最強ボルシェ論] ボルシェ997ターボ改

[モデナの可能性] アイディングF380GT &  
RSD360 in FSW



### Complete G-Class 加速する“G”

[対極のプラス] プラバスK8 × G6.1フルカスタム  
[チューンドGの先端] マンソリーGクチュール  
× プラバスG V12 × ハーマンガ

### LIVE REPORT! ジュネーヴの 過激派たち。

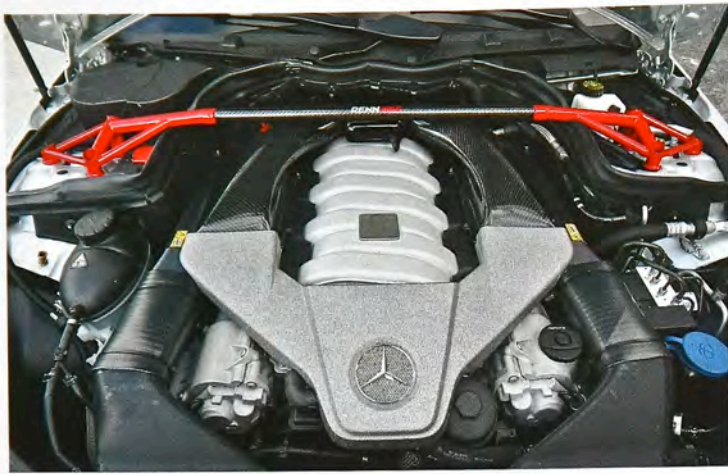
[スタイル論] チューンド・バナメーラ  
[厳選レポート] 注目の新作を一挙掲載!

Debut!  
プラバスE V12クーペ

最新チューナースタイル in Japan

Street Riders  
エスアンドカンパニーSL × リバイズM3

New Wheels  
TWS × アドバン・レーシング × ヴァルド



ECU & 吸排気のファインチューンでそのパワーおよびトルクは555ps / 6800rpm、615Nm / 5200rpm。エンジンルーム内には3ピース構造のカーボン製ストラットタワーバーが備わる。

それではない。OS技研のLSDは、コーナー進入時の鋭いターンインにも大いに威力を発揮する。C63 AMGはタイトコーナーで過大なアンダーステアに終始するのが欠点だが、レンテックC63では素直に

を祝ったところだった。「まずはC63 AMGを分解してみよう。設計、工作精度ともにさすがAMGだ、と思わず感服したもので」と、ハルトムートが語る。「ポートや燃焼室の形状は手を入れる余地がないほど完成度が高いので、吸気系とECUのプログラミングにチューンの主眼を置きました。」

路を走らせたところ、0→4000mを実に11・57秒で走り切り、4000m通過時のスピードは194・6km/hに達したという。ハルトムートの入念なチューンはドライブレインにもおよび、7GトロニックのAMG版、スピードシフトは、クラッチプレートを追加して摺動面積を増やしてある。「ギヤボックスの電子制御には手を入れる余地はないのですが、プレートを増やしてシフトスピードを速めました」とハルトムートは語る。レンテックC63でカーブの連続するステージを存分に走らせた私は、このクルマの「曲がる性能」がC63 AMGより飛躍的に向上していることを実感した。ここではOS技研製のスーパーロックLSDが決定的な仕事をしているのだ。このLSDは、内蔵するディスクプレートの枚数が

# RENNTech C63 AMG



内装は基本的にほぼフルノーマル状態。フロアマットにあしらわれたレンテックのロゴがさり気なくその存在を主張する。

ノーズが入って行き、舵角を大きく切って旋回する際のアンダーステアも目に見えて軽くなった。しかも今述べたように、コーナー出口で充分なトラクションを確保できるので、パワーオーバーステアにさえ持つて行ける。LSDの違いだけで、同じ屈曲路を走ってもレンテックC63はC63 AMGをはるか後方に置き去りにできるだろう。活躍の本拠地こそアメリカに移したハルトムート・ファイナルだが、AMG時代に培ったチューニング精神は連綿と生きている。私はそのことをとても嬉しく思いながら、試乗を終えた。



足下にはレンテック・オリジナルホイールの19インチが装着され、そのスポーク間からはオリジナルキャリパーが姿を現す。リヤにもストラットタワーバーが装着されるが、これはトランクを使用する際には取り外しが可能。



# 継承される、 AMGの血統。

もともとAMGに籍を置いていたハルトムート・ファイエル。彼が満を持して立ち上げたオリジナルチューナーがレンテックだ。AMGの血を継ぎつつ、アメリカに本拠地を構える。異例とも言えるバックグラウンドを持つメルセデスチューナー。そのコンプリートC63もまた斬新な内容を持つ一台だ。



COMPLETE  
*From*  
USA

PHOTO&REPORT ● Ian Kuah  
TRANSLATION ● 相原俊樹 (Toshiki Aihara)

レンテックを主宰するハルトムート・ファイエルは、まさにAMGのチューナーになる星の下に生まれたような男だ。AMGのお歴下、アツファルターバッツハに生まれたときからファイエルの人生はおおむね決まっていたと言っている。生家の裏庭から目と鼻の先にあるワークショップから組み上がったばかりのAMGが出荷されていく光景を毎日目にした彼は、10代のころからこのクルマと恋に落ちてしまった。だから学校を卒業するとアプレントイスとしてAMGに就職したのは、当然の成り行きだった。

AMGで働いて12年目にあたる1986年、ファイエルのキャリアを大きく変える転機が訪れる。AMGノースアメリカのテクニカル・ディレクターに任命されたのだ。アメリカにはチューンドAMGの市場が拓けていることをその目で見たファイエルは、3年後の1989年にAMGを辞して、自分が理想とするチューニングカーを造るべく、フロリダ州パームビーチカウンティにレンテックを立ち上げたのである。レンテックC63に試乗するため、私が大西洋を越えたのは2009年の12月のこと。そのときちょうど同社は創業20周年

555ps 615Nm

